

研究・調査報告書

| 分類番号 | 報告書番号 | 担当 |
|---|--------|--|
| A-169 | 24-412 | 手稲溪仁会病院 白坂知彦 独立行政法人国立病院機久里浜医療センター松下幸生 |
| 題名 (原題/訳) | | |
| Gabapentin treatment for alcohol dependence: a randomized clinical trial アルコール依存症に対するガバペンチン治療：ランダム化比較試験 | | |
| 執筆者 | | |
| Barbara J. Mason, Susan Quello , Vivian Goodell, Farhad Shadan, Mark Kyle, and Adnan Begovic | | |
| 掲載誌 | | |
| JAMA Intern Med. 2014 Jan;174(1):70-7. doi: 10.1001/jamainternmed.2013.11950. | | |
| キーワード | | PMID |
| アルコール依存症、ガバペンチン、治療効果、ランダム化比較試験 | | 24190578 |
| <p>重要性: アルコール依存症の治療に承認されている薬物は、米国のアルコール依存症患者の 9% 未満に処方されている。</p> <p>目的: カルシウムチャネル/γ-アミノ酪酸調節薬として広く処方されているガバペンチンが、用量依存的に持続的な断酒率と大量飲酒なしの率を増加させ、アルコール関連の不眠、不快気分、渴望を減少させるかどうかを判断する。</p> <p>デザイン、参加者および設定: 2004 年から 2010 年にかけて総合病院に隣接する単一施設の外来臨床研究施設で実施された、現在アルコール依存症の 18 歳以上の男女 150 人を対象とした 12 週間の二重盲検プラセボ対照用量設定無作為化試験を実施した。</p> <p>介入: ガバペンチンの経口投与（用量は 0 [プラセボ]、900mg、または 1800mg/日）およびマニュアルガイドによるカウンセリングの併用。</p> <p>主要転帰および評価項目: 12 週間の研究期間における完全断酒および大量飲酒なしの割合（主要）、および気分、睡眠、および渴望の変化（副次）を評価項目とした。結果 ガバペンチンは断酒率と大量飲酒なしの率を有意に改善した。断酒率は、プラセボ群で 4.1% (95% CI、1.1%～13.7%)、900mg 群で 11.1% (95% CI、5.2%～22.2%)、1800mg 投与群では 17.0% (95% CI、8.9%～30.1%) であった（用量効果の P 値は 0.04、1800mg 投与群の治療必要数[NNT]は 8）。大量飲酒なしの割合は、プラセボ群で 22.5% (95% CI、13.6%～37.2%)、900mg 群で 29.6% (95% CI、19.1%～42.8%)、mg 群、1800mg 群では 44.7% (95% CI、31.4%～58.8%) であった（用量効果の線形性について P = 0.02 ; 1800mg の NNT = 5）。同様の線形用量効果が、気分 (F2 = 7.37; P = .001)、睡眠 (F2 = 136; P < .001)、および渴望 (F2 = 3.56; P = .03) の測定値でも認められた。重大な薬物関連の有害事象は認められず、有害事象による中止（150 人中 9 人）、試験期間（平均[SD]、9.1[3.8]週間）、試験完了率（150 人中 85 人）は群間で差は認められなかった。</p> <p>結論と関連性: ガバペンチン（特に 1800mg の用量）は、アルコール依存症および再発に関連する不眠、不快気分、渴望の症状の治療に有効であり、安全性プロファイルも良好であった。プライマリケアにおけるアルコール依存症の薬物療法の実施率が増加することは、アルコール依存症の治療選択肢としてのガバペンチンの主な利点であると考えられる。</p> | | |